

たいてい落ちていました。そういう人は面接でも得意になって知識を披露して会話にならないのだと思います。公正取引委員会では「いっしょに働きたい人をとる」と言っていました。政策研究は最低限で大丈夫です。

「ただいま」と言える塾の存在が精神的な支え

山崎

官庁訪問中は、夜遅くに終わっても塾長がいつも待っていてくれるというのがありがたかったです。塾に帰ればだれか話し相手がいるし、いつも塾から「行ってきます」「ただいま」という感じでした。



石田

本当に官庁訪問は毎日へこむことばかりなんです。そのまま一人で帰っていたら次の日もひきずってしまうと思います。塾に来て塾長にアドバイスを受け、友人と話す、気持ちをリフレッシュして次の日に臨むことができました。それがすごく大きかったと思います。(一同、大きくうなづく)

永倉

私も喜治塾がなかったら絶対に官庁訪問に通らなかったと思います。

岩宮

本当に「ただいま」と言える空気や環境、喜治塾はそれに尽きると思う。

山崎

どんな仕事だって、一人でやる訳じゃないですよ。待合室で周りに人がいるのに、一人で勉強していたり、官庁訪問マニュアルを読んでいるような人は、自分のことを人にしゃべれない。喜治塾だと、常に自分のことを語り合える環境があるし、他人の考えや視点を取り込むことで成長できると思います。

井澤

喜治塾って小規模だから、ここに来れば人と話さなければならないという環境があるんですよ。この環境のおかげで、物おじせずに人と話す力が培われたんだと思います。

受験対策だけでなく一生ものの経験を!

五十嵐

いろいろとおほめいただきありがとうございます。最後に後輩へのメッセージがあればお願いします。

井澤

僕はなぜ喜治塾を選んだかという、予備校をただの勉強する場にはしたくなかったからなんです。他の予備校も回っていたのですが、いかにも予備校という殺伐とした空気が流れていて嫌でした。ただ試験に合格させるだけではなく、より良い日本をつくるための人材を育てるとい塾長の考えを聞いて、すごく感動し、僕の目標もたんに合格だけではなく、その先の社会や人を変えていくことにあるんだと再確認しました。喜治塾をたんに受験対策の場としてではなく、一生ものの経験を積む場として活用してもらいたいと思っています。

一同 異議なし!(笑)

石田

公務員試験は大学入試と違って面接があります。だから、自分自身が人間として成長して、一人前に働けるような人間にならなければいけないんですよ。そういう能力は勉強だけしては身に付かないので、先生や友人とコミュニケーションをとって成長しなければならない。そういう場が他の予備校と違ってすごく整っていたなと思います。



岩宮

モチベーションを維持するためにも「まず友達を作れ」ということです。

渋谷

私は他の人たちと違い、最初は友達を作らない方針でしたが、五十嵐先生から「面接対策は一人ではできない」と言われて、ラウンジで面接カードを作りながら周りの人の会話に耳を傾けるようにしました。一人のほうが好きな人でも、時々ラウンジで皆がどういことをしゃべっているのかを聞くのが参考になって良いと思います。

モチベーションの点では、私は逆に絶対受かりたいという思いが強すぎて、直前期は「落ちたらどうしよう」と泣きながら帰る状態でした。毎日自分がやったことを紙に書いて、自分はこれだけやっているから大丈夫と思うように言い聞かせていました。そして合格体験記を書いている自分を妄想していました。(一同笑「おれもやってた!」)

永倉

私は途中で「自分はもうだめではないか」とすごく不安になって勉強が手に付かなくなる時期がありました。そんな時、人と話したり相談できる環境があったからこそ立ち直れたんだと思います。大きい予備校に通ってインターネットで自宅学習なんかしていたら、たぶん私は途中でやめていたでしょう。論文試験の前日に答案が書けなくて落ち込んでいた時にも、塾長がすごく長い時間をかけて励ましてくれました。本当にここを選んで良かったと思います。

山崎

私も、試験前日に塾長から留守電に「やることは十分やったんだから、後は時間配分にだけ気をつけて」という吹き込みがありました。すごくうれしくて、試験前に繰り返し3回ぐらい聞きなおして気を落ち着けました。

私は社会人受験生の方に伝えたいことがあります。勉強以外に仕事のフィールドを持っていることはすごく良いことです。勉強したことを仕事に生かしたり、また仕事で感じた問題意識を勉強のモチベーションにできるのは学生にない強みだと思います。ある省庁の方も「頭の中だけで考えるのではなく、自分の身近な体験から『こうしたほうがいい、あしたのほうがいい』という意見を聞きたい」とおっしゃっていました。社会人の方はそういう視点を受験に生かしてください。年齢的にも若いほうが有利ということはまったくないので、ぜひ頑張ってください。

五十嵐

きょうはどうもありがとうございました。「『合格』の先にあるものを皆さんにお伝えしたい」という喜治塾の理念を汲み取って、塾を十二分に活用していただき、ほんとうにうれしく思います。皆さんの今後のご活躍を心よりお祈りしています。(了)

